Staff Blog

園長室ブログ

ゾウの話題を…

今回から、これまで書いてきた私のコラムを「園長室」のほうへ移し（復活？）、これまでの動物園日記へは飼育員や獣医など日々の話題をこまめに書いてもらうこととしました。なんと「日記」のほうはもう4回も更新。筆不精の私より全然情報が早いのでどうぞそちらもよろしくお願いします。

その「日記」のほうにも書いてありますが、いまゾウのグランドを倍近く広げる工事をしています。かみねでは昭和32年に開園し、翌年からずっとゾウを飼育展示しています。初代ミネコは昭和62年に亡くなりましたがその後は2代目ミネコとスズコのメス2頭を展示しています。しかし、グランドは1頭のときのまま。やはり2頭では狭いし、なんといっても動物園に入って真っ先に目に入るのがゾウです(入らなくても見える）。小さいお子さんは決まって「わー、ゾウさん。」といって入ってきます。いわばこの動物園の顔です。いま、売札所も資料館や事務室、売店などとあわせた建物として建設中です。そこで入園口周辺を新しいイメージとするためにもゾウのグランドをリニューアル拡張することにしました。工事期間中、安全確保のためゾウが見られなくなるのは心苦しいのですが、来年初めには新しい施設を公開できますのでいま少しご辛抱下さい。なお、拡張先に展示していたラマやバイソンはどうなったかとよく質問されますが、園内で移転できなかったためやむなく他の動物園などに引き取ってもらうことにしました。

ゾウグランドのリニューアルに際して、せっかく広くなるのだからこの際繁殖を試みてはどうか、という話も持ち上がりました。お客さんからも赤ちゃんできないの？といった話を時々いただきます。もちろん小さい赤ちゃんゾウはとてもかわいいものです。しかし、日本の動物園ではアジアゾウの繁殖はこれまで3例しかなく（うち今も生存は2例、このほか妊娠はしたものの出産時に母子ともに死亡のケースも)飼育下での繁殖は難しい動物とされてきました。また、うちのゾウは28歳と29歳ですが、少なくとも性成熟(12歳頃から）後の10歳代で妊娠を経験していないと、仮に妊娠してもうまくいかないか、最悪母子ともに危険であることもわかってきました。また、繁殖のためどちらか1頭をお嫁入りさせることになりますが、昭和63年以来ずっと一緒にいたメスたちを引き離せば、野生では結びつきの強いメスの群れで暮らすゾウのこと、どんな事態になるかわかりません。もちろん、オスの婿入りという手もありますが、今の獣舎では2頭までしか飼えないし、仮にメスのどちらかを出してもオスゾウの攻撃性を考えると根本的に今の獣舎のままでは無理ですし、改築には莫大な費用がかかります。結局、繁殖への期待はふくらむもののそれに比するリスクのほうが大きいことがわかってきました。

先日、所用で市原ぞうの国さんへ伺いました。ここはゾウさんショーやゾウさんライドなどで有名なほか、国内繁殖3例のうち一昨年（平成19年）生まれた「ゆめ花」ちゃんがいるところです。お母さんゾウ・プーリーの自然保育ですくすく育っているようで、坂本園長や副園長の小竹さんのご配慮で「ご対面」させていただきました。とても人懐っこく目の前に立つと、私のスニーカーの紐を鼻先で上手にほどいてくれました(頼んでないのに…）。こんな光景がかみねで実現したら…と一瞬思いましたが、それはないものねだり、ミネコとスズコには新しいグランドで思い切り遊んでもらいお客さんに楽しんでいただこうと考えています。ゾウご期待、あ、乞うご期待。

（平成21年9月15日　園長　生江信孝）

市原ぞうの国では、ゾウが園内を…

2歳の「ゆめ花」ちゃんと

急ピッチで進む工事

工事中でもゾウはいます

2009年9月15日

過去の一覧

令和6年

令和5年

令和4年

令和3年

令和2年